本だな

「天空の讃歌」

宮内紀雄，宮内誠司著
株式会社クライム，2002年8月，
145頁，3715円（本体価格）
ISBN 4-907664-42-7

非常に美しい，空をモチーフにした写真集である．私は，この写真集を一目見ただけで，これは手に入れたい，という強い欲求を感じた．それほどまでに美しい写真集であると断言できる．多くの写真には，雲の様子，竜巻，稲妻，日食，オーロラなどの，気象学をはじめとした様々な地球物理学的，天文学的現象が写されている．それらの美しさが余すところ無く捉えられており，そこに込められたメッセージは，空は素晴らしい，もっと眺めてみよう，ということである．実はこのような書評の必要などは無く，この本に目を留めた人はこの本に魅了されると思われる．

著者は，プロのカメラマンである父君の宮内紀雄氏と，気象庁の写真部に所属する，プロ並みの腕を持った御子息の誠司氏である．誠司氏は第36次南極地域観測隊員として1994年から1996年にかけて南極に越冬をしており，そのため，南極での写真も数多く掲載されている．それに加え，ヨーロッパやグアム，国内でも北海道から沖縄までと撮影場所は多彩である．一方，著者の自宅近辺や都心で撮影されたものも多く，空を愛でることは普段の生活の中でもできるのだと改めて思い知らされてしまう．

個々の写真，また，章の終わりには，気象学的，地球科学的解説もコメントとして添えられている．また，国内の写真の一部には，撮影当日の天気図も小さいながら一緒に掲載されており，地球物理学，気象学などを専攻してきたものにも，さらに興味深く写真を味わうことができるように考慮されている．また，私の様なカメラ音痴には意味がよく分からないが，カメラの機種やフィルターなどの撮影データも章の終わりにまとめられている．

さて，このように眺めるだけでも十二分に楽しめる写真集であるが，あえて，その活用法と欠点について考えてみよう．この写真集は，もしかすると，教育の現場で活用できるかも知れない．この本を眺めた若い心は，地球科学への興味をかきたてられる可能性があると思われる．少なくとも，自然への愛着心を持つのではないであろうか．教科書として使うわけにもいかないし，副読本としても適切であるとは言い難いが，索引も充実しており，知りたい現象の名前が分かっている場合には，その現象の写真や説明を探すことが容易であるように考慮されている，図書室や地学教室で数冊用意し，生徒，学生諸君にぜひとも眺めて頂きたいものである．

しかしながら，教育に使うには，一つの大きな欠点がある．数十冊もの参考文献リストがあるにもかかわらず，本文中に引用がほとんどないことである．しかし，写真集に引用は野暮というものかも知れない．そうであるならば，個々の文献に寸評，簡単な内容紹介を記してもらえれば，興味を持った読者のさらなる学習に役立ち，より活用しやすい教材になり得るであろう．

以上，もっともらしく述べてきたが，評者はおそらくこの本を評論する資格がないかもしれない．山登りがきっかけで自然に親しむようになり，天気図も必要に迫られて書けるようになったのだが，いわゆるお天気少年ではなかった．しかも，現在の生業は，現実世界とは一見無縁にすら思えるときもあるモデル・シミュレーションである．しかし，逆に，そういう人間こそ，この本を手にするべきかもしれない．そして，もう一度，空の美しさを思い出すべきであろう．

最近，ともすれば，空をゆっくりと眺めるという余裕を失ってしまっていた．そういう私にとっては，いわゆる癒し系の1冊である．

（地球シミュレータセンター　大淵　済）

© 2003　日本気象学会